

● 研究所の取組み ●

豊田市ITS情報センター<みちなびとよた>の概要と取組み

豊田市は、交通モデル都市として世界の模範となるべき持続可能な交通システム実現を目指し、平成16年度には豊田地域ITS「STAR☆T21」をスタートしました。

ITS情報センターは、「STAR☆T21」に掲げられている「総合的な情報の提供」の総合的な移動支援情報を提供する中心的な施設としての役割を果たすものとして位置づけられ、当研究所が指定管理者として運営管理しています。ITS情報センターは、①移動支援、②ITSの体験・学習、③まちづくりや市民との連携支援をコンセプトに、右図のように構成されます。16年度に開催した市民、小学生に向けたITS体験ツアーにおいて、体験によるITS

理解度は高く、今後も交通に関わる情報発信や交流の拠点として活用していきます。



海外研修生、ITSを体験する！

平成17年6月2日（木）

UNCRDセミナー「持続可能な交通（環境と交通）」

講師：太田所長、安藤研究主席

（財）豊田都市交通研究所では、毎年、事業の一環として国際連合地域開発センター（UNCRD）との共催による国連セミナーを実施しています。

今年はカンボジア・コロンビア・インド等11カ国からの研究生に対し、「環境と交通」に加え「ITS」をテーマに取りあげ、豊田市におけるITSの取組みの紹介とITS情報センターの見学を行いました。

ITS情報センターでのe-com（共同利用車）やITSデモカー、情報システム検索の見学体験は非常に盛り上がり、見学の後のディスカッションでは、研修生のITSへの関心の高さが見られました。今回の講義・実習では、研修生が実際にITSを見ることや触れることによって関心もさらに深まったように思われます。

「環境と交通」の講義では、国ごとの開発状況の違いを踏まえて、自国で対策に今、何を優先すべきか、など有意義な意見交換が行われました。

今後も、ITS情報センターが、交通やITSを幅広い視点からとりあげ、セミナーなどを通して意見交換や交通問題相談など、豊田市をはじめ世界各国の人々との交流の場となることを期待します。



▼ITSデモカーに乗って

平成17年度 所員社外活動

太田勝敏(所長):豊田市ITS推進会議 副委員長
豊田市交通まちづくり推進協議会 会長
松永哲扶(専務理事):豊田市ITS推進会議 委員
豊田市交通まちづくり推進協議会 委員
安藤良輔(研究主席):ハルビン工業大学(中国ハルビン市)客員教授
愛知県西春町社外重役(アイデア重役)
愛知環状鉄道再生支援協議会 委員

橋本成仁(主任研究員):豊田高専非常勤講師
大同工業大学 非常勤講師
東京都葛飾区コミュニティゾーン協議会アドバイザー
東京都世田谷区太子堂地区くらしのみちゾーン研究会委員
静岡県浜松市都心政策研究会委員
浜松市循環まちバス「く・る・る」利用促進原案検討会委員長
山崎基浩(主任研究員):大同工業大学 非常勤講師
増岡義弘(主任研究員):豊田市ITS推進会議 ワーキンググループ

財団法人豊田都市交通研究所

本研究所は、大学、民間企業、行政機関それぞれの機能を併せ持ち、研究所独自の立場を活かして社会貢献をめざします。

● 研究所のめざす役割

- 1 広義の都市交通の研究
- 2 交通モデル都市化の推進
- 3 世界への情報発信と貢献

● 組織概要

名称・財団法人 豊田都市交通研究所
英文名・Toyota Transportation Research Institute
設立・1991年3月1日
基本財産・30億円
理事長・鈴木公平(豊田市長)

■あつがき

最近、どこかに旅しましたか？
旅で撮った写真を見て自画自賛することありませんか？
あなたのベストショットをご投稿ください。次号の表紙を飾るかも！リニューアルした機関紙へのご要望、ご意見等もいただけたら幸いです。

■発行 (財)豊田都市交通研究所
■発行年月日 2005年7月15日
■編集人 田中智麻、山崎基浩
■機関紙お問合せ先 〒471-0026 愛知県豊田市若宮町1-1
TEL 0565-31-8551 FAX 0565-31-9888
URL http://www.ttri.or.jp
Mail ttri@ttri.or.jp

「まちと交通」～TTRI News Letter～

12号

■目次

- 改定にあたってのご挨拶
- 新着情報
- 最近の話題<TDM/愛・地球博>
- 研究所の活動報告
- 研究所の取組み<ITS情報センター>

広島スカイレール (撮影:山崎基浩)

ご挨拶 「まちと交通」～TTRI Letter～ 第12号の発刊によせて

(財)豊田都市交通研究所 所長 太田勝敏

これまで私共の研究所の研究活動状況は、年2回発行の「まちと交通」～TTRI Letter～により関係者の皆様にお伝えしてきました。

今回よりニュースレターとしての機能を高めるため年4回発行することとし、併せて紙面を一新することにしました。

シンポジウム、講演会などの事業案内を含めて研究所の研究活動と関連する都市交通政策・計画のトピックスを市民の皆様をはじめ、広く交通まちづくりに関心をもつ行政、大学、研究機関の皆様はその時々のよりの確かな情報をお伝えしていきたいと思っております。

まずは季刊誌の形で発行しますが、内容、発行回数など読者の皆様のご意見をいただきながら順次改善をはかり、紙ベースだけでなくメールとホームページの活用を検討したいと考えていますので、どうぞよろしくお願い致します。



最新情報

市民研究助成制度を開始

(財)豊田都市交通研究所では、都市交通に関する市民の関心を高め、市民の視点からの交通まちづくりに対するアイデアを発掘する目的で、平成17年度より市民研究助成制度を開始します。応募資格は、豊田市在住あるいは在勤・在学の方を中心に活動している市民グループとし、都市交通やまちづくりに関する自由な研究テーマを募集します。研究活動資金は上限20万円とします。詳しい応募内容については、当研究所までお問合せください。

交通まちづくり市民交流サロンの開催

昨年度までの連続市民セミナーに代わる企画として、本年度9月から市民の方々と一緒に交通とまちづくりに関して勉強する場として「交通まちづくり市民交流サロン」を開催する予定です。今年は市民の身近な交通手段である「徒歩」から見たまちづくりに視点を置いて、さまざまな課題について市民の方々と一緒に勉強する予定です。詳しい実施内容、スケジュールについては当研究所ホームページに掲載します。

● 最近の話題から ●

● トヨタ自動車の実践～環境負荷の低減をめざす～

通勤交通手段の転換で渋滞解消に取り組む

瀬尾和寛



▲朝の通勤ラッシュ（トヨタ自動車本社前）

豊田市のトヨタ本社地区には3万人程度の方が勤務していますが、出退勤時のトヨタ本社周辺道路では交通渋滞が目立っていました。そこで、トヨタでは2年程前から、マイカー通勤から公共交通機関等の交通手段への転換を促す施策（『足進キャンペーン』）を実施しています。

2003年2月から鉄道駅や寮・社宅と本社地区を結ぶ通勤シャトルバスの運行を開始しており、現在約1,500名が利用しています。最近では通勤シャトルバスの利用者を更に増やすため、運行ルートを新設したり、増便するなどの対策が進められています。

また、職場から2km圏内のマイカー通勤者約1,000名がこの活動に協力し、徒歩又は自転車へ転換しました。

昨今では、温暖化防止のためマイカー通勤から公共交通機関、徒歩、自転車など環境にやさしい通勤手段への転換が求められています。

通勤者の側は、①自転車及び徒歩通勤への転換、②マイカーしか交通手段のない人はパーク&シャトルや相乗りを、③通勤手段のある人は公共交通機関、会社通勤バスなどに転換するなど個人で対応可能な対策が求められています。

一方、事業者側は、マイカー以外の選択を促す施策（通勤手当の見直し、駐車場の有料化、転換者へのインセンティブ付与など）の展開など、環境にやさしい通勤手段への誘導を図ることが重要です。

通勤者及び事業者双方が行動するしくみが豊田市内で普及することをめざし、研究所は、今後も取り組みに対する推進を行っていきます。



▲会社行きバスを待つ（豊田市駅バス停）

● 愛・地球博の交通実態はどうなってるの？

近隣住民のアクセス手段選択

山崎基浩

愛知万博会場周辺の交通事情は、開幕前の計画情報に始まり、開幕後の日々の状況等、様々な報道がなされています。3ヶ月の折返し点を越えた今、豊田市在住の研究所員が住民的感覚で万博交通事情をレポートします。

豊田市中心部周辺から万博会場への交通手段は主に、①愛知環状鉄道+東部丘陵線（またはシャトルバス）、②公設P&R駐車場（三好あるいは藤岡）+シャトルバス、の2つが考えられます。他に休日は三河豊田駅に隣接するトヨタ自動車本社駐車場の無料提供や、豊田地区万博推進協議会による割安なバス運行といった豊田市民向けのオプションが用意されています。

選択肢で基準となるのは、価格、効率、混雑度などそれぞれの事情により変わってきます。例えば、大人3~4名で自家用車に乗り合わせるなら②が効率的ですが、1、2名の

単独行動なら①の方が安価です。

イベント交通処理は交通集中時が問題ですが、万博の場合も開場閉場時の混雑が大変激しく、リニモ（東部丘陵線）の乗車に30~60分程度待たされる上、社内混雑も激しいものがあります。開幕当初は、名古屋駅方面からの会場への交通は藤が丘方面が混雑していましたが、開幕後の報道による状況判断からか、JR中央線を利用して愛知環状線万博八草駅経由のリニモ利用者が増えていると思われます。複数の経路がある場合、経験によって円滑な経路を選択し均衡していくという交通行動のモデルを見ているようです。

ところで、会場周辺で私的に営まれている駐車場を利用し、会場にアクセスする人もいます。これは万博の交通計画の意図に反したのですが、多数の市営駐車場にぎっしり埋まる自動車を見ると、個人にとってマイカーの効用が大きいことを実感してしまいます。



▲リニモからの乗換を待つ人（万博八草駅）



▲会場内ゴンドラから見た周辺道路



▲開場しても入れない！朝10時の北ゲート

● 研究所活動報告 ●

—土木計画学春大会報告—

各地の鉄道廃線にともなう関心の高まり

6月4~5日に広島大学で第31回土木計画学研究発表会（春大会）が開催されました。今回で4回目になる春大会ですが、テーマを絞りより深い議論を進めるために、春大会では一般投稿部門を設けず、事前に立ち上げられたセッションへの論文投稿が行われています。

当研究所関連では、山崎主任研究員、田中研究員をそれぞれの第1著者とした2編の論文「利用者意識からみた鉄道とバスの比較—さなげ足助バスを例として—」「総合情報提供施設の利用実態と今後の課題および方向性について」の発表と、橋本がオーガナイザーとして立ち上げたセッション「鉄道廃止と代替バスについての検討」がありました。

それぞれ、紹介したいところですが、紙面の制約もあり、橋本のセッションについて簡単に紹介します。

このセッションでは、公共交通の規制緩和を背景に各地で発生している鉄道の廃止と自治体による廃止代替バスについての議論を行いました。山崎主任研究員の豊田市内の事例についての論文を含め、全国各地から7本の投稿がありました。

会場には多数の聴講者が詰めかけ、立ち見が発生する状態で、このテーマに関する関心の高さを示すとともに、このような問題・課題が、現在いろいろな地域で発生していることを伺わせるものでした。

廃止された鉄道路線を意識しすぎた設定を行うと良い結果にはならないとの指摘や廃止代替バスの検討自体に割く時間の短さや検討体制の課題により十分な検討が困難であるとの指摘、鉄道とバスについて利用者側の認識に差異があることや、通学手段が鉄道からバスに代わるることによって高校生の進学先の学校選択にも影響が見られることなどの指摘もなされました。一方、鉄道廃線をさせないための観光客誘致策などの報告も行われるなど、各地で多岐にわたる活動が行われていることが報告されました。

豊田市内でも鉄道廃止代替バスとしてさなげ足助バスが運行されていますが、このバスの改善を考える上でも参考となる貴重な意見が多数でセッションとなりました。

（文責：橋本）



▲代替運行している猿投足助バス停留所

—中部地方交通審議会答申についての講習会—

当研究所では、6月13日、中部地方交通審議会が10年後（2015年）を目標年次とした「中部圏における今後の交通政策のあり方」についての答申第9号を策定したことを踏まえ、今後、事業実施にかかわる関係各所に対しての講習会を開催しました。講習会では、答申のポイントと解説、審議会に参加した委員のそれぞれの立場からの視点、これからの実施に向けた事例紹介、および質疑応答が行われました。講師とその話題は次のとおりです。

1. 開会挨拶 竹内伝史
（岐阜大学地域科学部 教授）
2. 全体概要 多田浩人
（中部運輸局企画進行部企画課長）
3. 全体内容 森川高行
（名古屋大学大学院環境学研究所 教授）
4. 住民参加の視点から 大西光夫
（NPO法人ボランティアネイバーズ理事長）
5. 事業経営の視点から 神藤弘明
（日本政策投資銀行東海支店企画調査課長）
6. 計画立案事例 石川要一
（豊田市都市整備部交通政策課副主幹）

最後に講師全員に対しての質疑応答、意見交換が行われました。質疑でもあげられた、地域の自助努力という点に対し、中部運輸局多田氏から、公共交通事業を社会资本と同様に地域におけるサービスとして考えていくという観点から10年後をめざす答申の実践に対する期待を示されました。また、NPO法人が担うことに対する事業採算の可能性について問われ、事業に対する住民参加のあり方のみならず、事業主体として関わる可能性も感じさせる場面もありました。

尚、本講習会の記録集を近々発行する予定です。



▲セミナー講師との質疑応答